

国指定史跡 西南戦争遺跡 史跡指定記念

小学3・4年生用

# 西南戦争の地をたどろう

植木・玉東

植木・玉東

せいなんせんそう

# 西南戦争のあと イラストマップ

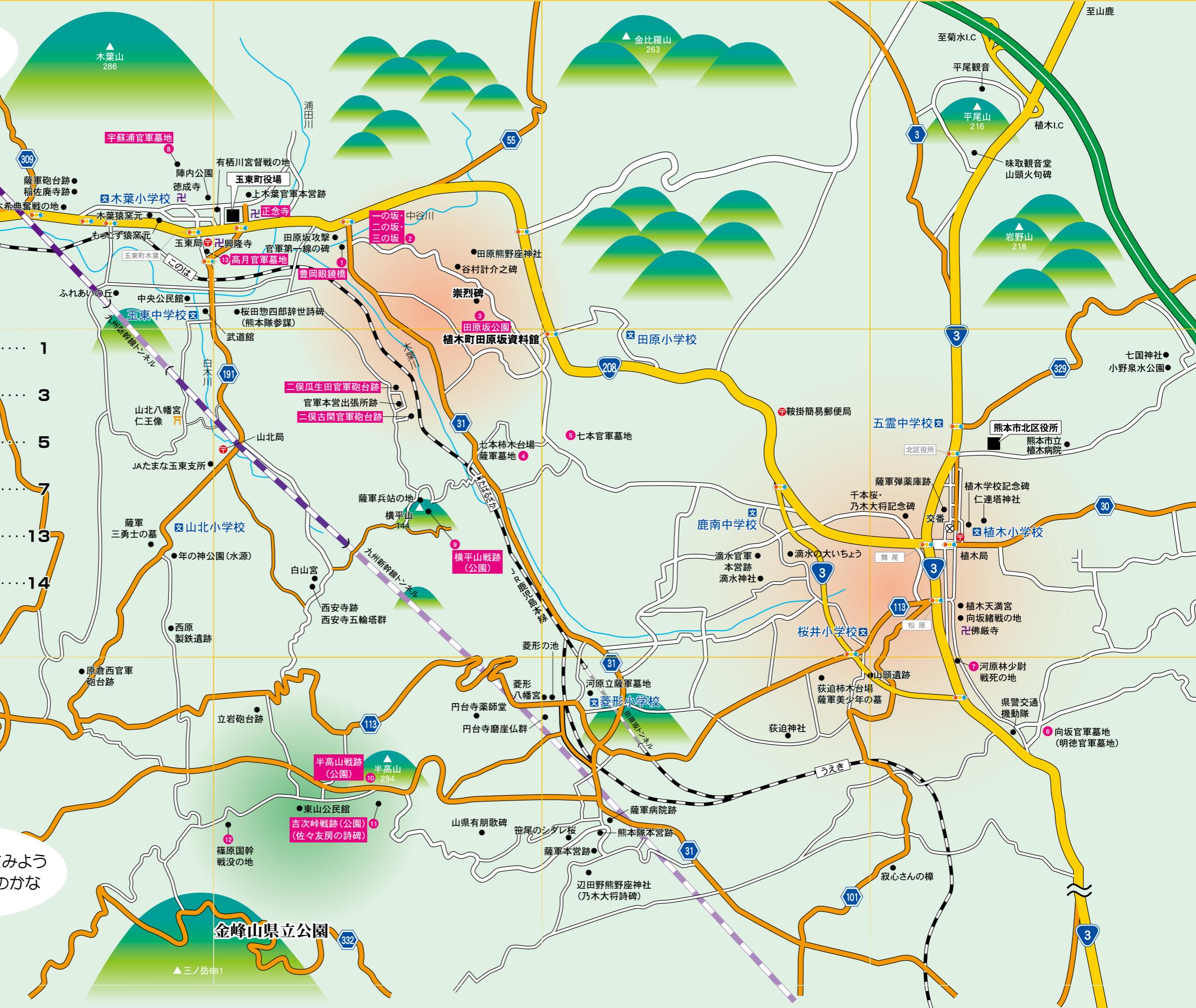
## もくじ

- 西南戦争のあとイラストマップ .....
- ふるさとで起こった西南戦争について知ろう .....
- 西南戦争のはじまり .....
- なぜ植木・玉東で戦ったのだろう .....
- 田原坂・吉次峠・横平山の戦い
- 西南戦争の終わり .....
- わたしたちにできること .....

ぼくたちのくらすところで、  
昔、戦争があったんだね



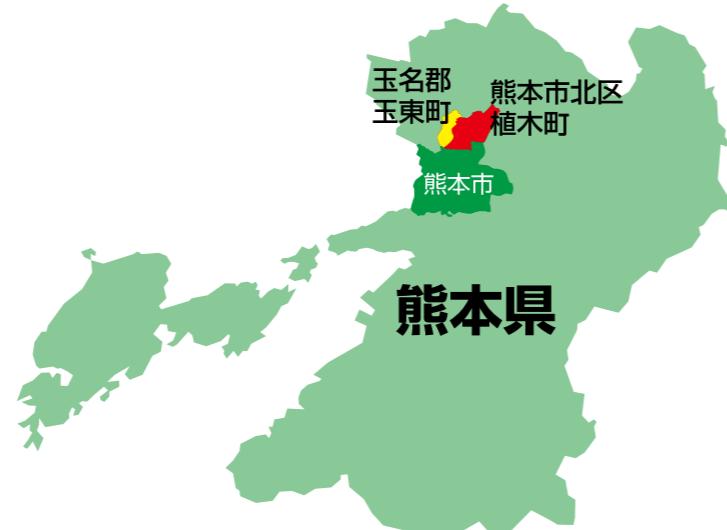
その場所に行ってみよう  
何が残っているのかな



# ふるさとで起こった西南戦争について知ろう

## この本の案内

わたしたちがくらしている町では、むかし、戦争がおこりました。西南戦争といいます。それは、今から130年ほど前におき、たくさんの人たちが傷つき、亡くなりました。植木・玉東は、この戦争の中でも、とてもはげしい戦いがあった場所で、町の中にはその戦いのあとがのこっています。



## 学ぶためにできること

これからふるさとにのこる西南戦争について学んでいくために、どうなことをすればいいのでしょうか。



①おじいちゃんやおばあちゃん、まわりの人が知っていることを聞いてみよう。



②図書館などで本に書いてあることを調べましょう。



③ふるさとにくわしい人や先生などに聞いてみましょう。



④その場所に行ってみよう。

いろんな発見があったらまとめてみましょう。



⑤戦争をくり返さないために何ができるか考えてみましょう。

## なぜ西南戦争は起こったのだろう さむらいの時代から新しい時代へ

今から約140年以上前の日本は、江戸時代といって今とはまったく違う暮らしをしていました。着物を着て、男の人の髪型はちょんまげ。さむらいや農家など、生まれたときから身分が決まっていました。そして、さむらいのリーダーである将軍とさむらいが、国の大変なことを決める政治を行っていました。さむらいは、刀を持つことを許され、さむらいというだけで給料がもらいました。

しかし、そのような暮らしがガラリと変わってしまった出来事があります。それを明治維新といいます。そして、そのときに活躍した一人が薩摩藩(今の鹿児島県)出身の西郷隆盛でした。



明治維新で日本は明治時代となり、外国をまねた新しい暮らしや制度に変わります。将軍はいなくなり、政治は天皇を中心に行われるようになりました。身分の区別も無くなります。また、着物から洋服、ちょんまげからざんぎり頭、と人々の生活も変わります。

そのような中、今まで刀をもって給料ももらえた元さむらいたちは、刀を持つことを禁止され、給料も無くなり、生活ができなくなりました。そのことに不満をもった元さむらいたちが日本各地で、武器をもって反乱を起こします。その反乱の中で最も大きかったのが西南戦争です。



西郷隆盛

# 西南戦争のはじまり

## 「薩摩軍」出発

日本各地で元さむらいたちの反乱が続く中、鹿児島県でも同じような動きが起ります。元さむらいたちは、ちょうどその頃、政治を行うことから引退した西郷隆盛をリーダーとして、その時政治をおこなっていた人たち(明治政府といいます)に抗議することを決意します。そして、今から約130年前の1877(明治10)年2月15日、大勢の人を集めて鹿児島を出発しました。彼らを、薩摩軍といいます。薩摩軍には、熊本や宮崎などからも参加する元さむらいがたくさんいました。

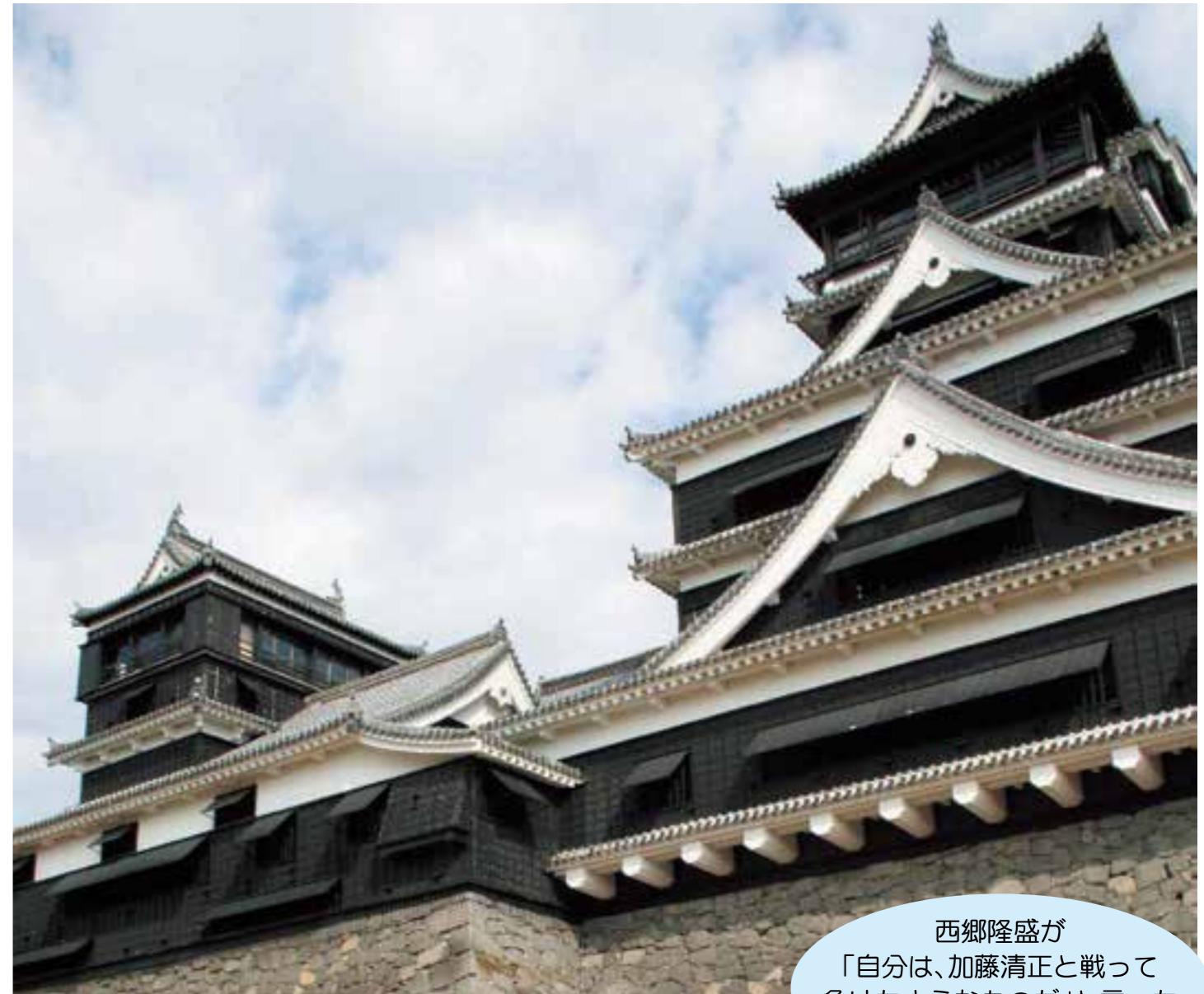
## 熊本城

薩摩軍は歩いて鹿児島を出発。途中、熊本城を通っていくこととなりました。このとき、熊本城には明治政府の軍隊がいて、薩摩軍が東京へ行くのを止めようとなります。しかし、大勢の薩摩軍に取り囲まれ、熊本城の明治政府軍は立てこもって戦うこととなりました。



## 戦いの前に火事になった熊本城

薩摩軍がやってくる前日、思いがけないことが起こりました。熊本城内で火事が発生し、熊本城の中心となる建物(天守閣)や本丸御殿が焼けてしまったのです。火事の原因は今もなぞに包まれています。



現在の熊本城(今ある天守閣は新しく建て直されたものです。)

西郷隆盛が  
「自分は、加藤清正と戦って  
負けたようなものだ」と言った  
と伝えられています。

熊本城は、今から約400年前に加藤清正といいうさむらいによってつくられた頑丈なお城です。戦いに備えてつくられたので、薩摩軍の攻撃に対しても負けません。

お城に立てこもった政府軍になかなか勝てない薩摩軍は、一部の兵隊を残して、大勢で東京を目指します。

しかし、かけつけた政府軍によって止められます。その場所が植木と玉東でした。



# なぜ植木・玉東で戦ったのだろう

## 植木と玉東がある場所

植木と玉東には、福岡と熊本城をつなぐ道が通っていました。福岡を通って東京へ向かいたい薩摩軍と、福岡から熊本城に立てこもる味方を助けに向かいたい政府軍が、ここを通ろうとしてはげしい戦いをくりかえすことになりました。



植木・玉東であきた戦いの中でも、  
とくに田原坂での戦いがはげしかったのは、  
政府軍が多くの人や馬や武器、兵士の食べ物などを運ぶとき、  
この田原坂を通ったからでした。

## 2月22日 植木 向坂の戦い 政府軍が、薩摩軍に軍の旗をうばわれる

熊本城の政府軍を助けるために来た応援軍に、乃木希典少佐という人がいました。乃木少佐たちが、薩摩軍と最初に戦ったのは植木の向坂でした。薩摩軍はとてもはげしくせめたので、政府軍はひとまず退却します。ところが途中で政府軍の大重要な旗を薩摩軍にうばわれてしまいました。軍の旗をうばわれることは、軍人にとってとてもはずかしいことだったので、乃木少佐は亡くなるまでこのくやしさを忘れませんでした。



千本桜・乃木大将記念碑

## 2月23日 玉東 木葉の戦い

向坂での戦いの次の日、政府軍は木葉の町でふたたび薩摩軍とはげしく戦います。薩摩軍はとても強く、政府軍は乃木少佐が殺されそうになりながら、いったん玉名まで退却します。しかし、多くの政府軍のおうえん部隊がかけつけ、いきおいを取り戻しました。



乃木少佐奮戦の地



上木葉官軍本営跡

## 西南戦争錦絵

西南戦争当時の錦絵は、新聞や言い伝え、うわさなどをもとに、画家が想像をしながら人々の好みに合うように作ったものです。



西南戦争錦絵

た ば る ざ か

玉東  
た き ち

じ と う げ

玉東  
よ こ ひ ら や ま

# 田原坂・吉次峠・横平山の戦い

## 空中かちあい弾

「空中かちあい弾(行合弾)」はてっぽうの弾が空中でぶつかったといわれるもので、二つの鉛の弾がめり込んでひとつになっているよう見えます。田原坂の戦いでは1日32万発という大量の弾が使われたといいます。小さな弾がぶつかるほどはげしいうち合いがあったのです。



空中かちあい弾

いったいどうなって  
いるんだろう



## 3月4日 いよいよ田原坂の戦いがはじまった

木葉の町に本陣を置いた政府軍は、次の日、田原坂にしりぞいた薩摩軍を攻撃します。この日から田原坂での17日間の戦いが始まりました。

薩摩軍は田原坂にしりぞき、そこに陣地をかまえて政府軍をまちかまえていました。田原坂は守る側(薩摩軍)にとって有利な地形です。政府軍は、どんなにたくさんの人やたくさんの武器を使って攻めても、なかなか薩摩軍に勝てません。そこで、政府軍は作戦を変えます。田原坂から少しほなれた玉東町の二俣台地に大砲をおいて、毎日たくさんの攻撃を加えました。こうして、さすがの薩摩軍もだいに弱っていきます。

田原坂・吉次峠・横平山は  
三大激戦地と呼ばれているよ



植木エリア



田原坂

玉東エリア

ふたまたうりゅうだほうだいあと はつくつちょうさ  
二俣瓜生田砲台跡の発掘調査

## 玉東 吉次峠の戦い

### 「地獄峠」と呼ばれた吉次峠

政府軍が熊本城へ向かうためには、田原坂のように、大砲は通れませんが、軍隊が通ることができる道がありました。それが、吉次峠です。この吉次峠を越えようとした政府軍を薩摩軍が攻撃しました。10万発以上の弾丸が飛びかい、先に吉次峠を守っていた薩摩軍の攻撃に、政府軍の兵士200人以上が命を落としました。その後、政府軍兵士はこの吉次峠を「地獄峠」と呼び、近付くことさえ恐れました。



吉次峠戦跡・公園

## 玉東 横平山の戦い



横平山公園

### うばい合いがくり返された横平山

田原坂がよく見える横平山は、薩摩軍と政府軍がうばい合いをくり返したところです。どちらもゆづらない戦いが行われていましたが、政府軍の抜刀隊が応援に加わり、彼らは頂上の薩摩軍に切りこみ、ついに薩摩軍は全員が逃げ出しました。この戦いで、薩摩軍兵士や政府軍抜刀隊の多くが亡くなり、横平山のうばい合いは、西南戦争の三大激戦の一つにあげられるほどはげしいものとなりました。

\*三大激戦 田原坂の戦い・吉次峠の戦い・横平山の戦い。

## 3月20日、ついに田原坂は政府軍の手に

しだいに陣地を広げていった政府軍は、兵士を集め、薩摩軍が守る田原坂を一氣にはさみうちしました。その日は雨でまわりが見えにくく、薩摩軍がゆだんしていたこともあって、薩摩軍は負けます。こうして数え切れないほどの死傷者をだした田原坂での戦いは終わりました。しかし、その後も薩摩軍は抵抗を続けます。

## 戦争の被害にあった植木・玉東 住民もまきぞえになった

西南戦争で、平和なくらしがこわされてしまったのが、植木・玉東の住民たちです。弾に当たるなどして、多くの住民が命を落としました。また、多くの家が放火によって焼かれてしまったといいます。政府軍も薩摩軍も、敵のかくれ場所にならないように村の家々に火をつけたともいわれています。西南戦争は、植木・玉東の住民たちに、大きな被害を与えるました。

戦争はそこに  
住む人たちまで  
まきこんでしまうんだ

たくさん的人が  
国を良くしようとして  
戦ったんだね



### 弾痕の家

植木町田原坂資料館にある、西南戦争当時の被害にあった家の模型です。私たちのふるさとに住んでいた人々もこの戦争に巻き込まれ、逃げた人も多くいましたが、家をこわされたり、お金をうばわれたり、むりやり戦いを手伝わされた人たちもたくさんいました。

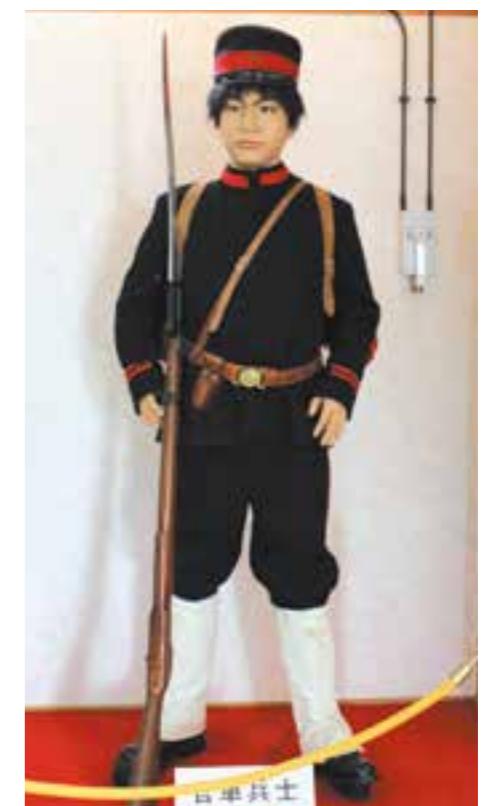


弾痕の家

## 政府軍と薩摩軍のちがい



薩摩軍



政府軍



薩摩軍の食事



政府軍の食事



政府軍と薩摩軍の兵士をくらべてみよう。  
どういうところがちがったのかな？

## 西南戦争の終わり

田原坂や吉次峠などでの戦いに負けた薩摩軍は、追ってくる政府軍との戦いを続けながら、ふるさとの鹿児島に戻りました。政府軍は、薩摩軍が立てこもった鹿児島市にある丘、**城山**を取り囲みます。そして、政府軍の一斉攻撃がはじまり、多くの兵士が戦死しました。西郷隆盛もここで弾を受けた傷つき「もうこのへんでいいだろう」と自害しました。西郷隆盛51歳でした。こうして明治10年9月24日、薩摩軍は城山で全滅し、西南戦争は終わりました。

※自害 自分の命を終わらせること。

## 日本の歴史を変える場所となった植木・玉東

田原坂をはじめ、吉次峠や横平山で薩摩軍が政府軍に負けたことが、西南戦争の勝ち負けを決めることとなりました。西南戦争が終わると、各地のさむらいの反乱も治まり、明治政府の新しい国を作る動きは早まります。

田原坂は、今は車で通れば、あっという間に過ぎてしまう場所。しかし、日本の歴史を大きく変えた大切な場所だということを忘れてはいけません。

戦争はとても  
おそろしいものだね  
今の平和を守って  
いかなくちゃ  
いけないね



高月官軍墓地(玉東)



七本官軍墓地(植木)



西南戦役戦没者慰靈之碑(植木)

※慰靈 死者の靈をなぐさめる。

## わたしたちにできること

わたしたちのくらす町には、西南戦争のあった場所や使われたものが残っています。それらは、昔のことを知るために大切なものです。わたしたちの今のかるしが戦争で亡くなつた人々のおかげで成り立っていることを考えてみましょう。そして、それらをこれからもずっと残していくために何ができるか話し合ってみて下さい。

### 調べるときに役立つ場所

#### 市役所・町役場

いろいろなことについてくわしい人たちがいます。教育委員会には地元の歴史や文化財などの情報が集まっています。

#### 歴史資料館

植木や玉東地域の歴史資料を集め、守っているところです。昔使われていた物や関係資料を見ることができます。  
(田原坂資料館)

#### 図書館

いろいろな見方で書かれた西南戦争の本や、戦いに関わった人物の資料、くわしい歴史などを読むことができます。

#### 博物館

博物館には展示や保存だけでなく、専門の人たちが調査・研究しています。研究の新しい情報などもあり、よりくわしく学ぶことができます。(熊本市立博物館)

## 西南戦争の歴史を伝えていく取り組み

#### 郷土伝承

西南戦争の激戦地として知られる田原坂に近い田原小では、田原坂ボランティア清掃や郷土伝承クラブの「田原坂剣舞」等の活動を通して、郷土の歴史を大切に受け継ぐ取り組みが行われています。

#### 西南戦争の跡を保存する取り組み

熊本市北区植木町と玉名郡玉東町では、西南戦争の戦いの跡を調べ、大切に守っていくための取り組みを行っています。

## 植木遺跡一覧 (表中の番号はP1～P2のイラストマップの番号と一致)

1 豊岡眼鏡橋から 2 一の坂 二の坂 三の坂への道	この坂道を中心とした一帯が激戦の舞台となりました。[国指定史跡]
3 田原坂公園 ・植木町田原坂資料館	いまではツツジやサクラの名所として知られる美しい公園です。園内には、激戦の跡が残る弾痕の家(復元)や資料館が建ち、当時の戦いを知ることができます。
4 七本柿木台場薩軍墓地	戦死した薩摩軍や薩摩軍熊本隊の兵士が眠る薩軍墓地です。
5 七本官軍墓地	田原坂の戦いのあと、植木や吉次・木留などで戦死した政府軍およそ300人が眠っています。[県指定史跡]
6 向坂官軍墓地 7 河原林少尉戦死の地	河原林少尉が、命を落とした場所。この際、薩摩軍に軍旗がうばわれました。

## 玉東遺跡一覧 (表中の番号はP1～P2のイラストマップの番号と一致)

8 宇蘇浦官軍墓地	警視抜刀隊を含む政府軍399人の戦死者を葬っている墓地です。吉松秀枝少佐や、戦場でたくさんの手がらをたてたことで有名な谷村計介の墓もあります。[国指定史跡]
9 横平山戦跡(公園)	横平山は、政府軍・薩摩軍の激しい戦いが行われました。山頂には陣地の跡が残っており激しい戦いを物語っています。[国指定史跡]
10 半高山戦跡(公園) 11 吉次峠戦跡(公園)	最も激しい戦闘が行われた場所のひとつです。吉次峠は“地獄峠”と恐れられた険しい場所で、両軍の間に激しい戦いが行われました。[国指定史跡]
12 篠原国幹戦没の地	薩軍一番大隊長 篠原国幹は、吉次峠の近くで薩摩軍を指揮し先頭に立って戦い、戦死しました。
13 高月官軍墓地	玉東町高月にある政府軍の軍人・軍夫・警視隊が眠っています。西南戦争の激戦地であった、田原坂・吉次峠・二俣・横平山などで戦死した人々の墓地です。[国指定史跡]

発行／平成23年12月改訂・第2刷 平成24年6月・第3刷 平成25年8月

第4刷 平成26年8月・第5刷 平成27年8月

編集／植木町・玉東町西南戦争遺跡群連携保存活用協議会

発行元／玉東町教育委員会